平成二十五年十月　作品　於　文京アカデミー音羽

父の忌の邯鄲に耳澄ましをり　（一江）

故郷へ向ふ車窓の鰯雲　（隆治）

秋果積む小さき店の夕明かり　（正雄）

信濃路や袖にまつはる秋の風　（前歩）

名月やビルの間に探し当て　（隆行）

上海の秋天を衝く摩天楼　（孝昭）

工事場に槌音響き秋高し　（平六）

おごそかに月の下なるみやうつし（貴美）

ぶどう着く安否を問へる文添へて（正佳）

遠野田は黄金に光り美しき　（奉男）

金色に光り跳び去る秋の蛇　（太郎）